

日本統計協会主催、池袋駅近くの立教大学のホールを会場に “第62回 統計セミナー”開催

ビッグデータ時代におけるICTを活用した問題解決力育成を考える
～新課程における統計教育のあり方：教科：数学と情報の連携の必要性～



150名を超える参加者で会場は熱気に包まれていました



平成24年9月29日(土)、午後1時から、池袋駅近くにある立教大学11号館で、日本統計協会主催、立教大学社会情報教育研究センター、日本統計学会、応用統計学会、統計関連学会連合、統計数理研究所、全国統計教育研究協議会などが共催して第62回「統計シンポジウム」が開催されました。

「ビッグデータ時代におけるICT^{*1}を活用した問題解決力育成を考える～新課程における統計教育のあり方：教科：数学と情報の連携の必要性～」をテーマに開催された今回のセミナーでは4名の方が登壇しました。

最初は文部科学省の初等中等教育局視学官の長尾篤志先生、2番目は文部科学省生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当）付教科調査官の上野耕史先生、3番目は慶應義塾大学環境情報学部部長・教授の村井純先生、最後は大学入試センター顧問で中央大学大学院理工学研究科教授の田栗正章先生でした。

*1：ICT: Information and Communication Technology

1980年代の日本の躍進をみた米国をはじめ諸外国が21世紀の若者に求められる知識と能力の柱の一つとして「統計教育の充実」を掲げ、教育改革を推進したといわれますが、一方で「ゆとり教育」を目指した日本の教育界との差は歴然、そこで先の学習指導要領の改訂により、反転、統計関連のカリキュラムの充実を目指しています。

今回のセミナーではその考え方や目指している内容等を具体的に紹介頂いたものです。

また、セミナーの開始前と休憩時間を使って会場提供元の立教大学社会情報教育研究センターはじめ、総務省統計局、統計数理研究所、構造計画研究所のMinitab、米国SAS Institute JapanのJMPジャパン、東京図書、教育出版、ベネッセなどの資料展示が行われ、参加者が資料を参照していました。

熱気あふれる講演と質疑応答で、予定を大幅に超過し、午後5時、無事終了しました。

統計関連資料や教材の展示コーナー



立教大学社会情報教育研究センターの展示（手前）やベネッセさんの展示（左手）



JMPジャパンの展示



構造計画研究所の展示



東京大学の教材展示

会場の後部座席には展示コーナーが設けられ、会場提供元の立教大学社会情報教育研究センターはじめ、総務省統計局や統計数理研究所などの展示が行われました。展示コーナーでの質問にはかなり専門的な質問が交わされている様子でした。

《開会の挨拶》



挨拶する日本統計協会的美添理事長

開会に先立ち、日本統計協会的美添泰人理事長（青山学院大学教授）がセミナー参加への謝意を述べ、開会挨拶を行いました。

続いて日本統計学会の竹村彰通会長（東京大学教授）が挨拶に立ち、統計教育への学会としての取組み、統計検定などについて触れ、開会挨拶を行いました。



挨拶する日本統計学会の竹村会長



司会は慶應義塾大学大学院教授の渡辺美智子先生が行いました。

「高等学校学習指導要領数学科における統計的な内容の意義と指導」



3つのスクリーンを使って、見易く、迫力あるプレゼンテーションが行われました



最初に登壇した文部科学省の初等中等教育局視学官の長尾篤志先生《高等学校学習指導要領数学科における統計的な内容の意義と指導～数学「データの分析」の指導と評価の考え方～》をテーマに、先の学習指導要領改訂に取り組まれた背景、中学校・高等学校の統計的な内容などについて説明頂き、質疑応答が行われました。

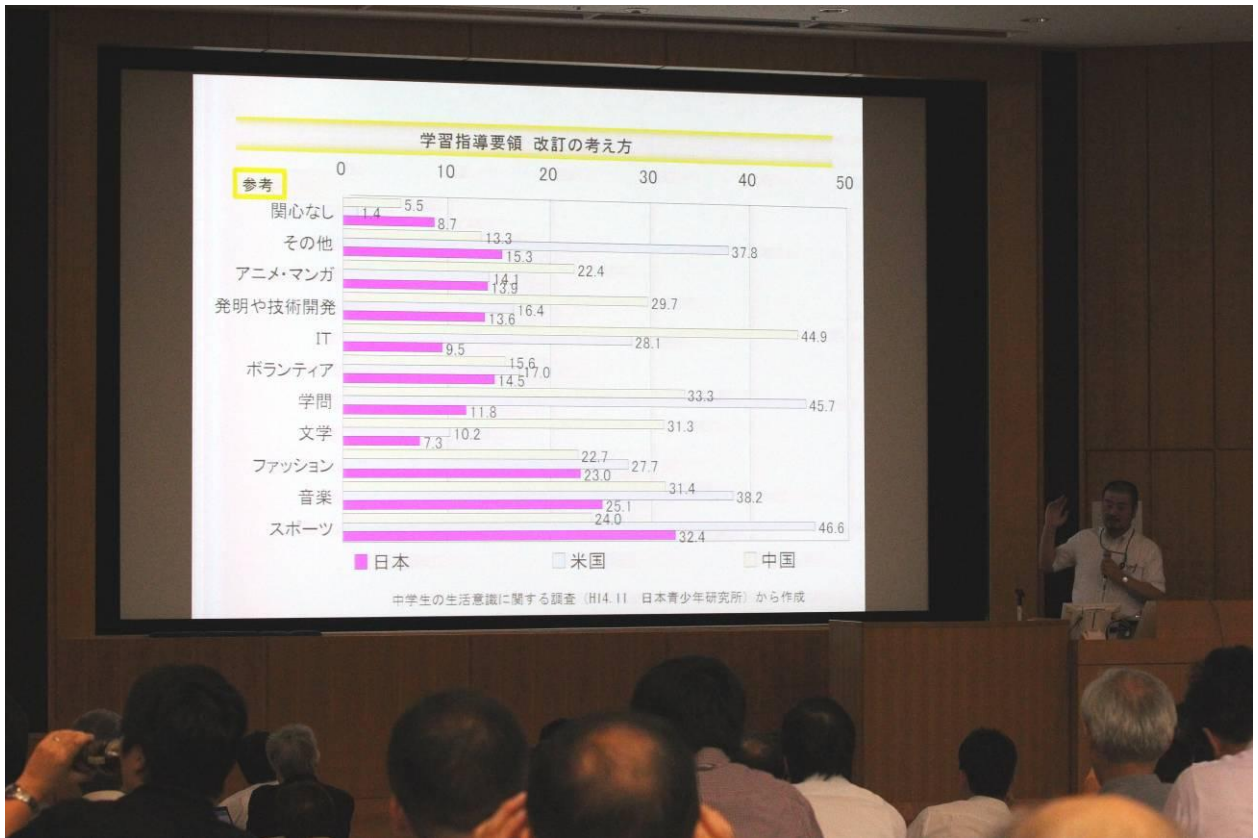


講演される長尾先生



質問に立つ参加者

「新課程・情報における問題解決力育成の考え方」



「生きる力」の共通理解

「生きる力」とは
【知識基盤社会】、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会

- ① 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む
- ② 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶えなく生まれる
- ③ 知識の進歩は従来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる
- ④ 性別や年齢を問わず参画することが促進される

で必要な力

競争できる力

- ・ 基礎的・基本的な（疎感化しない）知識・技能
- ・ それらを活用して課題を見いだし、解決するための思考力・判断力・表現力等

共存できる力

- ・ 他者や社会、自然や環境とともに生きることのできる力

当初予定された文部科学省初等中等教育局視学官の永井克昇氏都合により急遽代理登壇した文部科学省生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当）付教科調査官の上野耕史先生、学習指導要領改訂の考え方について具体的に説明を行い、講演後には熱心に質疑応答が行われました。

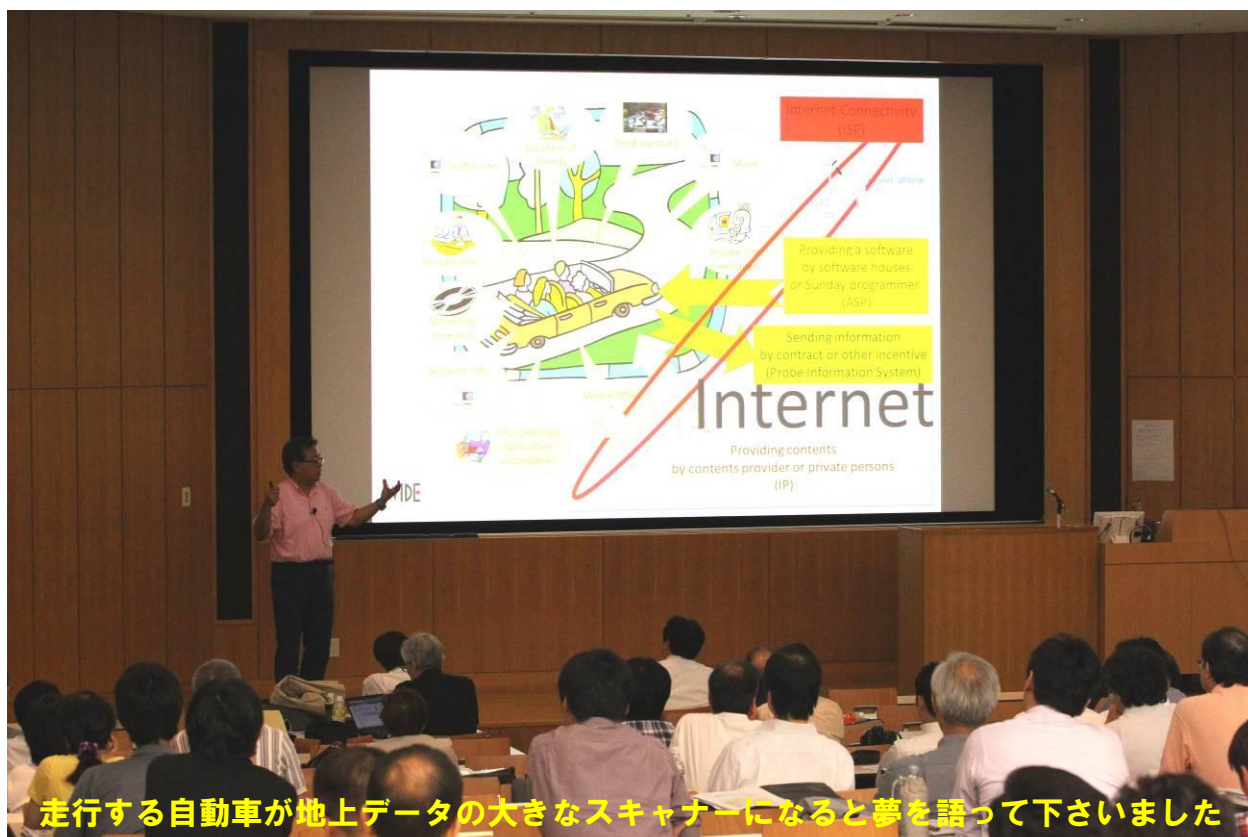


講演される上野先生



熱心に質問する参加者

「ビッグデータ時代：教育とインターネットの役割と責任」



走行する自動車が地上データの大きなスキャナーになると夢を語って下さいました

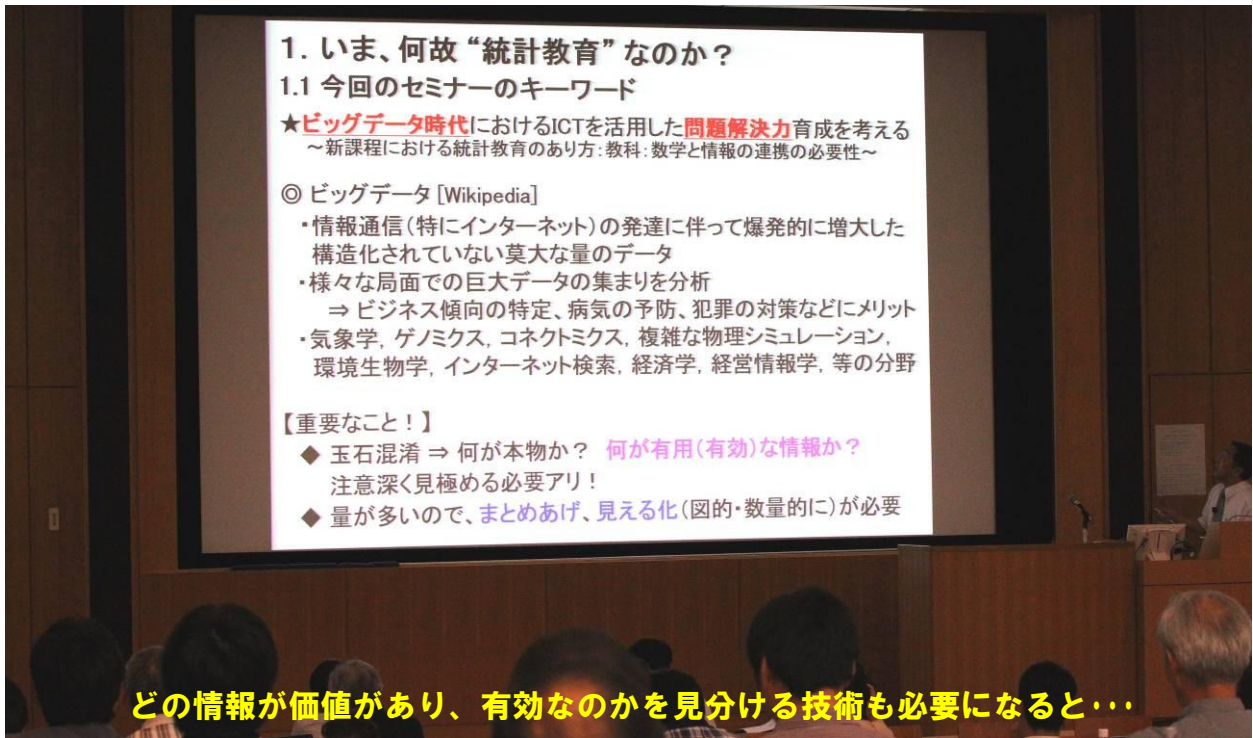


続いて登壇したのが欧米ではインターネットサムライと呼ばれる我が国のインターネットの生みの親・慶應義塾大学の環境情報学部長の村井純教授、「ビッグデータ時代：教育とインターネットの役割と責任」をテーマに現代は膨大なデータが簡単に集まる時代、統計や情報教育の必要性を訴えました。



講演される村井先生、次第に熱くなり上着を脱いで舞台の上を縦横無尽に……

「これからの時代における統計教育の目指すべき方向とその評価」



最後に登壇したのは大学入試センター顧問で中央大学大学院理工学研究科教授の田栗正章先生。

「これからの時代における統計教育の目指すべき方向とその評価～新課程のねらいをふまえた入試への期待～」をテーマに、“統計学”の在り方と期待を述べ、参加者との間で熱心な議論を繰広げました。



講演される田栗先生



熱心に質問する参加者

すべての講演が終わり、最後に日本統計学会の竹村会長がこの日の講演者に感謝の言葉を、また参加者への謝辞を述べて、閉会の挨拶を行い、午後5時終了しました。